

少し遅めの

謹 賀 新 年

いたします。
 昨年は皆様にとりまして、どんな年でしたでしょうか？おそらく、辛いこと、苦しいことが多く感じられたのではないのでしょうか。私たちはどうも嫌なことは忘れず、嬉しいことはすぐ忘れるように



平成二十年を無事迎えることができたことを慶ばせていただきたいと思います。旧年中は光遍寺護持発展のためご尽力をいただきありがとうございました。本年も、どうぞ、よろしくお願

明けましておめでとーいになります

です。

初日の出を拝む人は多いですが、大晦日の夕日を拝む人は少ないです。たいていは、初日の出を拝みながら「今年こそはよい年でありますように...」と願います。しかし、仏教徒である私たちは、良い未来を願う前に、今ある私に感謝することが先であろうと思います。「無常の世の中ではありませんが、おかげさまで今年も無事過ごすことができました。ありがとうございます。」と西の空に沈みゆく大晦日の夕日を拝むべきではないでしょうか。
 昨年は私もできませんでしたが、今年こそは、大晦日の夕日を拝める、そんな一年にしたいと考えています。



光 遍 寺 新 聞



第 8 号

発行所

〒638-0315
 奈良県吉野郡
 天川村沢原 141
 浄土真宗
 本願寺派
 仏照山
 光遍寺

電話番号
 0747-63-0638
 ホームページ
<http://www.kouhenji.org>

今月の法語

念仏は
 私の心を
 照らし出す鏡
 (光山 道潤)



除 夜 会 ・ 修 正 会 勤 ま る



平成二十年一月一日午前零時ちようどに、除夜の鐘を撞き始めました。雪が積もり寒い中ではありましたが、撞き始める前から大勢の方が境内に集まり、撞き始めの頃には行列ができるほどでした(写真左)。キャンプにいられた方や外国の方までいらっしやり、皆さんが一緒になってこのイベントを楽しんでおられました。

しばらくしてから、本堂では除夜会・修正会として、『正信偈』をお勤めしました。その後、『ハリネズミのジレンマ』の話を中心にお取り次ぎをさせていただきました。ハリネズミは仲間になつこうとするが、相手の針で刺され、自らの針で相手を刺してしまい、近づくことができず苦しみます。これは煩惱という針を全身にまとうた私達自身の姿です。お念仏によつて、この自分自身の針の存在に気付かせていただくことができます。



撮影：森田正文 様
 闇夜にロウソクの明かりに囲まれた釣鐘堂が浮かび上がりました。その姿はまさに幻想的でした。

お知らせ

光遍寺ホームページ上で、光遍寺新聞がカラーでご覧いただけるようになりました。カラーですと、写真や図がきれいにだけ見ていただけ、ずいぶん感じが違って見えます。それを印刷していただき、保存用としていただくこともできます。是非、ご覧ください。

ちょこっと ほうわ

人助けのために拝み屋さんをやっておられたのですが、裁判沙汰になり、初めてこれではいけないと、真宗の僧侶になったという方がいらっしやるそうです。その方が次のようなことをおっしゃっています。

『迷ってくる人、それはどういう人かという、「私は何にも悪くない、何にも悪いことしてないのに、なんでこんなに不幸な目にあうのだろう。」そう思って来る人です。被害者意識の固まりです。「私は何にも悪いことしてない。悪いのは世の中。周りが悪い。それなのになんでこんなひどい目に遭わなきゃならないのか。」そういう思いで来るのです。そういう人に向かっては何を言うかという、何でもいいのです。たとえば、「さわったら駄目なものをさわっただろう。」、こう言います。そしたら相手は真剣になって考えます。「そういえば、三ヶ月ほど前、井戸を埋めました。」こう言うのです。「うん、それだ。」と答えます。そうしたら相手が納得して帰って行きます。しかも、よくみる拝み屋さんだという評価までつけて帰ってくれるのです。』

冷静に考えてみると、その人の不幸と井戸を埋めたこととは何の関係もありません。完全に因果(原因と結果)の道理から外れています。しかし、当事者になるとついつい原因を自分の外に求めたくなるものです。馬鹿な人だと笑ってははいられません。そんな我々だからこそ、仏様の智慧の光に出会うことによってのみ、ものの道理に目覚めさせていただくことができるのです。

除夜会・修正会の裏で……

～仏教壮年会・仏教婦人会の方々のご協力があればこそ～



準備段階から当日まで多くの方々にご協力いただきました。仏華はいつものように赤井正一様が(写真上段)、釣鐘堂の準備は仏教壮年会の皆様が(写真中段)、当日受付には仏教婦人会の皆様が(写真左)、寒い中ご苦労いただきました。

門信徒 広場

一般に、仏教は葬式や法事のときのみに関係するものと捉えられがちですが、私たちが思っている以上に仏教は生活の中に浸透しています。それは、日常何気なく使っている言葉の中に多くの仏教用語が含まれていることから分かります。ただ、それが仏教から来ている言葉であることを知らずに使っていることがほとんどです。また、その意味が元々の意味とは大きくずれてしまっていることも多く、さらに仏教用語であることを気付きにくくしています。

さて、ここで問題です。日常よく使われる仏教用語①～⑩は、元々仏教的にどういう意味を持つのでしょうか？

下の(ア)～(コ)よりそれぞれ選んでください。これらが全て仏教用語であることに驚かれるのではないのでしょうか？

- ① 愛
- ② 会釈
- ③ 覚悟
- ④ 機嫌
- ⑤ 大丈夫
- ⑥ 迷惑
- ⑦ 知識
- ⑧ 無事
- ⑨ 道具
- ⑩ 冗談

(ア) 一見矛盾するように見える仏教の教えの相違点を掘り下げ、その根本にある真実の意味を明らかにすること

(イ) 道理に迷い、とまどうことで、どうしてよいか分からないで、途方にくれること

(ウ) 仏道の修行に関係のない無用な対話

(エ) こだわりのない、障りのない心の状態

(オ) 迷いや貧(むさぼ)りの根源となる悪の心の働き

(カ) 他人をそしりきらいこと、世の人たちが嫌悪すること

(キ) 迷いを去り、真理を体得し、さとの知恵を得ることを

(ク) 偉大な人、りっぱな人、しっかりした人のこと

(ケ) 友達とか、知り合いとか、親しい人のこと

(コ) 修行僧の持ち物

答えが分かりましたら、光遍寺までご連絡ください。先着 5 名様に素敵な記念品を差し上げます。遠慮なさらずに申し出てください。

阿弥ちゃん!!



前号《第7号の答え》
光遍寺本堂外陣(げじん)の畳の枚数

56 枚